

# 市民活動と社会教育

学びの拠点がはぐくむ力

図書館  
国立市の 公民館 での体験から  
博物館

2019 年 6 月 16 日(日) 1:30-4:30pm. (開場 13:15)

会場 たましん RISURU ホール 5F 第 4 会議室  
(西国立駅徒歩 7 分 / 立川駅南口徒歩 13 分)

お話 荒井敏行さん  
(元国立市公民館長)



- ◆ 70 年前、公民館が作られたとき、公民館には人々の学びを通して、民主主義を育て、地域の産業を興し、新しい日本を創っていくという大きな理想と期待がありました。それは侵略戦争の果ての敗戦という大失敗を体験し、日々の暮らしに追われながらも、学ぶということを強く求めていた人々に受け入れられ、多くの人がそこで自由な学びを体験し、自らを育て、やがてその人たちの力が新しい地域を作っていました。
- ◆ いま当時とは比べものにならないほど学べる場が増えた半面、多摩地域でも公民館の数は減り、社会教育の役割は変わってきているようにも見えます。また、社会教育法などが改正され社会教育施設が教育委員会から外すことも可能にされようとしています。
- ◆ 世界も日本国内も、大きな矛盾と困難に直面し、社会が大きく変わろうとしている今、あらためて社会教育と私たちの関わりを考えてみたいと思います。  
講師の荒井敏行さんは、国立市職員として図書館・公民館・博物館という三つの代表的な社会教育施設で働き、それぞれの施設で市民の自由で豊かな学びを実現することに取り組んでこられました。その体験を話していただく中で、社会教育施設での学びの意味と役割を考えます。  
どなたもぜひお越しください。

資料代 500 円  
(アンティ多摩会員無料)